

特別活動論

Study of Extra-Curricular Activities

UEOKA Yoshikuni

上岡 祥邦

科目ナンバリング : UTL-2-311-03



■授業の目的及び到達目標

学習指導要領における特別活動の意義、目標、内容についての理解を深め、指導計画の作成や具体的な指導方法を学ぶことを通して、教員として必要な資質・能力を身に付けることを目的とする。また、学習指導要領における特別活動の目標、内容及び内容の取扱いについて理解し、学級活動の学習指導案ならびに生徒会活動・学校行事の実施要項を作成できることを到達目標とする。

■授業計画

- 1 人間関係づくりと特別活動
本講義のガイダンスと学級開きの際の指導方法について学ぶ
- 2 人間関係づくりの演習
構成的グループエンカウンターを用いた学級指導の方法を演習を通して習得する。
- 3 特別活動の特質と意義
特別活動の特質と意義について概観する。
- 4 教育課程と特別活動
特別活動と各教科、特別の教科道徳、総合的な学習（探求）の時間との関連について、補完性・共通点・相違点等を理解する。
- 5 生徒指導と特別活動
特別活動と生徒指導との関連、「チームとしての学校」の視点や家庭・地域・関係機関との連携について理解する。
- 6 社会性の育成と特別活動
生徒の人格形成に資する「望ましい集団活動」を促す視点から特別活動の指導を考える。
- 7 学級（ホームルーム）活動の実践事例研究
学級活動の目標、学級活動の内容、特質について理解し、指導内容を検討する。
- 8 学級活動の指導計画と学習指導案の作成・評価
年間指導計画の例示をもとに、1 単位時間の学級（ホームルーム）活動の学習指導案を作成する。
- 9 生徒会活動の指導と事例研究
生徒会活動の目標、意義と役割、内容、特質、指導計画の作成、指導上の留意点について理解する。
- 10 学校行事の指導と事例研究
学校行事の目標、教育的意義、内容、特質、各学校行事のねらいと指導上の留意点等について理解する。
- 11 学校行事の指導と評価
個別の学校行事の指導計画を作成する。
- 12 キャリア教育の理解
キャリア教育の本質を理解し、特別活動を要として行われるキャリア教育の指導手法について習得する。
- 13 学修のまとめ
学修のまとめとして総合的な試験を行い、フィードバックとしての解説を行う。

■授業の方法

- ・教科書や参考資料に基づく講義を中心とし、項目ごとに学修のまとめを行って内容の定着を図る。
- ・講義に基づいて個人研究やグループ研究のほか、集団活動の演習と発表も適宜行う。
- ・課題等のフィードバックは翌回の講義で行う。

■予習・復習

- ・本時の関係箇所についてテキストを通読する。
- ・これまでに会った印象深い先生の指導について考察する。
- ・紋日科学省および国立教育政策研究所のHPに目を通しておく。

■成績評価の方法（成績の評定方法、授業態度、レポート等の扱い）

- ・課題への取り組み、レポート等の提出、試験の結果等により総合的に評価する。
- ・試験50%、学修への取り組み（課題の達成状況等）50%
- ・各講義冒頭でレポートについての振り返りを行う。
- ・グループワークには積極的に参加する。

■教科書・参考書

教科書：渡部邦雄他編著『改訂第2版 特別活動指導法（日本文教出版）』

参考書：『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編』『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 特別活動編』

■関連する科目

「教職論」「教育原理」「生徒指導論」「総合的な学習の時間指導論」などの教職課程科目が直接関連する。

■当該科目の実務経験（該当する場合のみ記載）

担当教員は都内公立中学校で4年間勤務し、その内、教育管理職として13年間学校経営にあたった。また、東京都中学校特別活動研究会長、全日本中学校特別活動研究会長を務め、特別活動の指導・研究の実績をもち、その経験を踏まえて教育現場で求められる実践的な講義と演習を行う。